

村長の日記

5月8日（火）

海外地方行政調査団

今日から、全国町村会海外地方行政調査団の副団長として参加。

14:10

伊丹発のANA2178で成田へ。

ANAクラウンプラザホテル成田でメンバーが揃う。

団長は千葉県町村長会会長の岩田氏。

岩田氏の挨拶

今回は北欧 デンマーク、ノルウェー、フィンランドの3か国を訪問。“from cradle to grave”（ゆりかごから墓場まで）の手厚い福祉で有名。高福祉、高負担の国。国民の皆さんが高負担を当然として、福祉に金を掛けることに同意した国々。

自然環境維持、税の状況を調査する。この3国共に消費税は高い。デンマーク・フィンランドは25%、ノルウェーは26%。消費税を2%上げて10%にするのに大きな反対のある日本とは大違い。出来るだけ多くの人の意見を聞いて来よう。

福祉の先進国、自然保護の先進国、日本に取り入れることが沢山あると思うのできっちり調査して来たい。

5月9日（水）

11:25

成田発のJALでフランクフルトへ、12時間のフライト。

偏西風に向かい風で飛行するので、時間がかかる。今日の成田はまるで嵐、機体はボーイング787-9、新しい。離陸後しばらくしてTVのモニターに映る飛行コースを見ると、新潟の北側から日本海、シベリアに向かって北上中。機内食を頂きながらお酒を少々、早く寝るためには必要。

ウラジオストック近くで食事を終わり、アルコールの勢いを借りて寝る。

途中トイレで目をさまし、目をつむるがなかなか寝つけない。うつらうつらしているうちに、あと1時間50分でフランクフルト着のアナウンス。ルートマップを見ると帰りの出発地ヘルシンキを北に見て飛行中。12時間の飛行はつらい。

村長の日記

現地時間 16 時 30 分(日本時間 23 時 30 分)フランクフルト着。昼に長時間寝るのは大変。降機後、EU 域内入国、ボディチェックが厳しい。私の持っていた乳液は 100cc を超えていると廃棄処分になった。金属探知機で靴の裏側まで調べられた。テロが起こるので非常に厳しく調べている。

フランクフルトで 4 時間のトランジット後、SAS 機でコペンハーゲンへ。0 時着(日本時間午前 7 時)。スマホを見ると時間も電話もすべて現地モード。自宅へ電話して寝る。

5 月 10 日 (木)

今日、デンマークはキリスト昇天祭で休日。1 日コペンハーゲン市内を観光。コペンハーゲンと言えばアンデルセン。いたる所にアンデルセンゆかりの施設がある。有名な人魚姫を見に行ったところ、日本から送られた桜の森があった。根っこから 7 m ほどの所で幹を止め、枝を横に張り出させている。日本では見られない桜の木の仕立。1 本の幹から横に広がる桜の木は、初めて見た。

午後

陶器で有名なロイヤルコペンハーゲン本店へ。

ヨーロッパで有名な陶器はウエッジウッド、マイセンしか知らないが、有名ははず。かなり高い。一般商品を 6 個だけ買った。

陶器は使いやすい陶器ほどすぐ割れてなくなる。割らないように大事に使う。

5 月 11 日 (土)

8:00

出発。ミンデルグルンデン(北海沿岸の海岸)にある風力発電所=海の中にでかい風車が立っている所。基礎工事もほとんどなく、浅い海の底に置いてあるだけ。今日もかなり強い西風が吹いている。この発電所には直径 76 m のブレードがついており高さは 64 m、年間 94 万 kw/h の電力を発生し、コペンハーゲン市の 3% の電力を供給する。発電風車のそばへ行くと、大きな風切音がする。市街地から 2~3 Km 離れているので、音の心配はない。

この 20 基の風車で年間 1 万 3,000 トンの石炭を節約する。デンマークでは 1990 年クリーンエネルギー率は 6% だったが、2020 年にはクリーンエネルギー率 40% を達成、来る 2050 年には 100% を目指して努力中。

村長の日記

風力発電見学後、AMHGER資源活用センターへ。本センターは現在も建設中だが既に営業運転を開始している。デンマークの施設はほとんどが熱供給と発電を行っており、この施設も両方の機能を持つ。本施設はコペンハーゲンを中心とした5市の共同施設であり、人口60万人、68,000企業のごみを処理する。ごみ集積所は10カ所あり、出たごみは1番近い集積所に集められ、85%はリサイクルされる。1日の処理量は70トン、運転温度は1000℃以上の熔融炉。ダイオキシンは出ない。

この処理場はごみを燃やすだけでなく80mのロッククライミング練習場、レストラン、ウォーキングフィールド、およびスキーゲレンデを併設している。あと2~3年ですべて完成するが、完成するとこの施設は収支バランスする計算になっている。

建設費は800億円、耐用年数は20年を予定しているが30年以上は使えるので次の施設は15年後から計画すればよい。

デンマークでは食料自給率300%。日本と比較すれば、すばらしい農業生産国である。この国では小麦のわらも重要な燃料であるとともに、家畜のふんもメタンガス発生源としてほぼ100%熱資源として利用されている。

16:30

フェリーでオスロに向けて出港、スローで構内を出て行く。クルーズ船よりは小さいが、かなりデカイ。バス、車、トラックを積み込んで、2000人近い客も乗り込んでいる。言葉から中国の人達とわかるグループの乗船が多い。でかい西欧人と中国の人達、私たち日本人は一握り。

キャビンはツインベッド。エキストラを入れると4人は入れるが、今回はシングルユース。シーサイドキャビンだから海が見える。向かいのキャビンは壁だけで外が見えない、ラッキーだ。

19:00

バイキングレストランで食事。ビール、ワインをオーダーして始める。パンは日本では考えられないほど固い、北欧人は歯が丈夫なのだ。肉、野菜、シーフード各種あるが、中にはザリガニのボイルまである。

少しずつ取って食べたが、1番旨いのはたらのキャビア、つまり”たらこ”だ。この船は大きいゆえか非常に静か。オスロ到着は翌朝9時45分、十分時間があるのですぐに寝る。トイレで目が覚める。時計を見ると日本時間の朝9時、現地で朝2時、5~6時間寝たらしい。

5月12日(土)

朝6時に目が覚め、自宅へ定時電話。今日はオスロからベルゲンへ移動、忙しい。

村長の日記

9:45

フェリーが音もなく定時着岸、途中揺れもなく無事オスロへ。今日午後の便でベルゲンへ行く。1日移動日。

途中オスロ市役所で行われている成人式に出会う。ノルウェーの成人式は16歳、日本とかなり変わっている点は、親子兄弟そろって成人式に参加。男性はタキシードが多く、女性はカラフルな民族衣装着用。日本では本人だけがほとんど。年齢がばらばらの人達が正装しているので何のイベントかと思っていたが、成人式。市役所前の広場に1000人以上の人達が集まっている。この国のコミュニティと家族の絆は強い。

昼食は出国以来初めての中国料理。ふかひれで無いスープ、マーボ豆腐、カモ肉の炒め物、鳥肉いため、春巻き。バイキングつづきの後では旨い。

オスロ空港はSASのハブ空港、かなり大きい。離陸後、残雪を見ながらベルゲンへ。雪山が終わると、島と海ばかりの中に空港があった。

20年ぶりのベルゲン、以前来たときはスタバングルから高速船で来たが、今は道路が完備しており船便は無くなった。空から見た感じでは、道路の整備が非常に進んでいるようだ。

5月13日(日)

日曜なので、朝食は7時30分から。いつもより遅い。出発は8時。

朝食はバイキング。今回はまさにバイキング、ハムが5種類、チーズが5種類、ベーコンのカリカリ焼き、ウインナー野菜、卵他。

北欧に来て困ったのは、柔らかいパンが無い。大小はあるが、フランスパン風で固い。

今日は日曜、観光デイ。バスで約100Km先のボスへ。ボスでベルゲン鉄道(ベルゲン鉄道はオスローベルゲン間を約6時間で結ぶ鉄道、単線で非電化、ディーゼル機関車で運営している)に乗る。

さすが国鉄、ボスの駅は立派、だがトイレは有料、10クローネ(160円)。50分でフロム着、フロム鉄道へ乗る。

フロム鉄道は標高800mのフロムから先のフィヨルドまで、20Km走って海拔0mまで降りる、ヨーロッパで有名な山岳鉄道。話を聞くと、1940年開通、私と同級生だ。現在のような建設機械の無い時代、困難な工事だった。当時の建設資材運搬道路はきちんと保存されている。

急峻なフィヨルドの壁にトンネルを曲線でつないだ鉄道を作ったのは、やはり観光目的か？ 物資輸送目的か？

村長の日記

ノルウェーのフィヨルドは殆どが水面から1000m以上の標高差がある。その頂上付近から海面まで、よく鉄道を作ったものだ。この国は北海油田のおかげだと思うが、至る所にトンネルが掘られている。私たちの着いたフィヨルドの底フロムから、グドヴァンゲンまで11キロのトンネルがあり、反対側に24.5キロのラルダールトンネル（道路トンネルとしては世界最長）がある。この国は人家が数軒あればトンネルと電気が完備されている。人の移動が第1の課題だ、田中角栄総理当時の新潟のようだ。フィヨルド先端に300人乗りの観光船着岸スペースと10数軒の家、斜面にへばりついた少しばかりの草地、ヤギ10数当分の草が取れる(150~300坪)土地と高い岩壁の所までトンネルが掘ってある。国力の差、マイノリティを重視するバイキングの国を、日本も見習うべきだ。物価が高い、労働時間が短い、給料が高い、税が高い、娯楽施設は無い、冬が長い(5月の10日頃で桜満開、山には残雪が沢山ある)この国で、皆さんが幸せそうに暮らしている理由は、村おこしの理由になりそうだ。

5月14日（月）

Kvam 市訪問

副市長 HEIDI SANDVEN BOTNEUN（52歳 女性 高校教師）が出迎えてくれた。人口8500人の町、年間予算600万クローネ(96億円)。予算が多いか少ないかは国情が違うので比較できないが、議会議員27人は、すべて職業を持っている。市長は議員の互選で選ぶ。副市長も同じで、議員は無給で議会は夜開かれる。米国やカナダと同じように、市職員80人を仕切るシティマネージャー(事務方のトップ)が、実質的に都市行政業務を行う。

他に、若い人たちのグループ、障害者のグループなど各種団体の意見を聞き、議会内部の各グループのニーズを調整しながら、議会、町を運営する。

2013年、Kvam 市は国より漸進的な街として表彰を受けた。

町の産業：2500軒の別荘、鮭の養殖（年間11,000トン 250万匹 を、日本を含む世界各国へ輸出）、フェロシリコン、マグネシウム（スマホに多く使われている）。人口構成は70歳以上20%と高齢化している。

町の農業(牧畜業)は集団化しつつあり、個々で行うより経営状況は良くなっている。

町の観光事業は1860年に開始した。フィヨルドを利用し、イギリス・フランスの上流階級を誘致。以来一貫して観光重視政策を継続、

村長の日記

現在は非常に多くの顧客を得ている。

当市は自然、氷河、山、ミュージアム、ギャラリー、アウトドア、観光農業、ハイキングトレイル、レストラン、カフェ、ホテル、キャンプサイト、色々なアクティビティを有し、2016年には1夜宿泊人数3万人を記録し、2017年には1夜3万8千人を記録した。国、地域 各組織を通じ集客拡大を図っている。

5月15日（火）

今日は移動日、ヘルシンキへ向かう。

9:00

ホテル出発。途中、あまりにも道路整備が行き届いているので感激。すぐに空港着。

北海油田のおかげかだと思うが、アップダウンの多い地形にもかかわらず、邪魔な山や丘、建物があればすべてトンネルで解決している。地盤の強い国柄、トンネルの内部は全て掘りっぱなし。この国では、トンネルの内部は掘った岩壁のままが多い。強い岩盤のおかげだろう。発券ゲートへ行って驚いた。フィンエアーのベルゲン→ヘルシンキ直行便は私たちが乗る便が初便。お寿司とスイーツの振る舞いがあった。ノルウェーの空港で寿司の振る舞いがあるとは、久しぶりのお寿司で少し感激。思いがけない寿司はうまい。

機体はブラジル製のエンブラエル最新鋭機。三菱のMRJも早く飛ばないとだめだ。

フィンエアー関係者の挨拶を聞きながら搭乗、2時間のフライトでヘルシンキ到着。就航初便への歓迎放水を受けて、最後の訪問地ヘルシンキへ着いた。

5月16日

エスポー市訪問

高齢者福祉担当のマリアさんの話。

エスポー市の人口は28万人、65歳以上は4万人、75歳以上は15400人、高齢化率は20%。

面積は528平方キロ、千早赤阪村の19倍。ほとんど海面と同じ高さの平面で、ヘルシンキの隣町。北緯60度、樺太と同じ緯度だが、本日は30度近い暑さ。天気予報では2~3日先には平年並みの10度まで最高気温が落ちるらしい。街の老齢化率は1994年 8%、2

村長の日記

014年 14%、2034年 31%と予想されている。

ケアの必要な老人は2001年 8人、2009年 295人、2026年 2021人となり早いスピードで増えている。

高齢者には健康で安全、趣味などで在宅してもらうのが大切。施設ケアより在宅ケアを大切にして支援して行く。平均寿命は延びている。

現在75歳以上の人の93%は在宅。在宅を進めているが、在宅で対応不可能になったところで施設入所となる。フィンランドは核家族化が進んでおり、傾向としては18歳で家を出て行くのが普通の社会。教育は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学校、大学院、まで無料。したがってアルバイトで生活できる。

さすがノキアの国、在宅介護・施設介護にかかわらず、IT/ICT を使い、人を最大限へらしている。施設の中でも可能な限り個の特性を大切にしている。

在宅の場合、単身では人生をエンジョイできない。生活にも不安を感じたりすることがある。個人の家を受け入れてもらって在宅を津けることが多い費用は1人1,500ユーロ(1カ月19万円)が必要だ。

現在施設入居の場合月4,000ユーロ(520,000円)が必要であるが、入居者は年金の80%を支払い、残りの20%は個人の小使いとされ、不足分は行政が支給する。

介護の人材確保であるが、国の経済が良いときは採用が難しく、経済がダウンすれば採用が楽だ。不足時は人材派遣会社で補充するか、管理職も総出で働くことがある。

次にアクティブライフビレッジのCEO、コハさんの話。

彼は介護器具の開発・販売・リースをしている会社の社長。高齢者に時計・GPSの通信機能を付けた器具を携帯させ、徘徊予防等に使用しているが、認知症になると器具の着け忘れがあり大変だ。

顔の前10cm程度の所をスワイプ(非接触)するだけで体温が計れる機材、ベッドのマットレス下にセットするだけで、体温、呼吸、脈拍、睡眠の深さが自動送信され、睡眠中の入所者の体調、異常が1か所で認識できる機材等の説明を受けた。

携帯の大手ノキアを生んだ国の先進性を認識することが出来た。

村長の日記

5月17日（木）

今日から帰る。

朝

ヘルシンキ空港に到着。搭乗前に土産を買おうと免税エリアへ。値段を見ると、やはり日本より高い、日本は良い国だと感じた。

帰りはほぼ9時間、この間にぐっすり寝れるか起きているかで、時差ぼけが強いかわ弱いかが変わる。

ヨーロッパ土産として、森伊蔵 他、焼酎をJALの機内で買った。

5月19日（土）

大阪南部高速道路事業化促進協議会

大阪府南部の大和川以南、葛城、金剛、岩湧山麓には高速道路が無い。河南、千早赤阪、富田林、大阪狭山、河内長野、この5市町村は大阪の高速道路不毛トライアングルだ。南阪奈道 太子インターから、葛城、金剛、岩湧山麓を通り、岸和田インター近くで阪和道と合流する高速道路が出来れば、関西国際空港へ30分で到着でき、奥河内は大いに躍進する。ぜひ早期に事業化したい。事業化から完成までは10年～15年掛かる、まず事業化を。

当日は竹本先生、浦野先生も参加いただき、2人とも国への太いパイプ役を引き受けると約束いただいた。

協議会には岸和田、和泉、富田林、河内長野、松原、大阪狭山、藤井寺、羽曳野、太子、河南、千早赤阪、和歌山県から葛城町、橋本市、奈良県から五條市が参加。大阪府議、和歌山県議も参加頂き、いいムードの会だった。

5月20日（日）

楠公際

5月25日は楠木正成公の生まれた日とされる。千早神社では5月25日に近い前の日曜日に、千早神社で「くすのきさん」と称してお祭りを行っている。午後には多聞尚学館運動場で地域の運動会を行っている。高齢者が多く、千早神社へ登れなくなったので、何年か前から運動会は多聞で、神事は神社で行うことになっている。

従来は千早伊勢講の中で垣内と称する組織があり、上出、中出、下出、田中出、柳出などの、多分”千早地区大昔の隣組”に分かれていた。

村長の日記

昔は各垣内が順番で祭りの運営に当たっていたが、高齢化と人口減少で各垣内だけでは運営が出来なくなり、今年から地区を2つに分け、祭りの運営をお願いした。

9時過ぎに まつまさ を出て千早神社へ。裏参道から登りにかかったが、息が切れる、体が重い、年々体力の落ちてゆくのが実感できる。今一度鍛えなおす必要を感じる。10年位前には一気に早足で登れたのに、途中休憩がいる年齢を感じる。

5月23日（水）

道の駅「千早赤阪」検討委員会

4月からの道の駅オープン(暫定)に伴い、村は本格的な道の駅の姿を目指して検討委員会を作り、将来に元気を求める道の駅開設を数回にわたり討議してもらう。

村の道の駅は大阪で初めてできた道の駅だった。近隣に多くの大きな道の駅が出来て、従来のやり方では経営の維持が困難となってきた。販売用の村内産品が少ない上、農産物直売所が別にある。解決すべき問題が多々ある。

従来からの経緯もあり、農家の皆さんが1つになって利益を上げて行ける道の駅を作り上げる必要があり、この検討委員会を立ち上げた。

私は道の駅を立ち上げることで

住民、来村者に楽しく利用していただけること。

出品者には連日出品が出来ることで収益が改善する事。

道の駅自体の利益が確保できること。

この3点を必ず確保したい。

5月24日（木）

小吹台で杉本さんによる、第2回目の楠公さん講演会

杉本さんの話が2回目を迎えた、両いきいきサロンで行われている。社会福祉協議会会長に楠公さん大河ドラマの状況を話せと言われて、挨拶かたがた出かけた。

上京したときには、朝早く皇居1周歩くことにしている。日本の中心皇居周辺には、皇居外苑に楠公さんの銅像があるだけだ。千早赤阪で

村長の日記

生まれた楠公さんが、ただ1つだけ日本の中心にある。村にとって素晴らしいことだと思う。村には、楠公誕生地、産湯の井戸、赤坂城址、千早城址、坊領、猫路、二河流辺、ほかの城跡群、寄せ手塚、味方塚、などの遺跡が点在している。

今、府下で河内長野市、千早赤阪村、富田林市、四條畷市、島本町、及び神戸市 を中心として28市町村で楠公さん大河ドラマ放映をNHKにお願いしている。ぜひ皆さんも応援を。

5月26日（日）

6:30

役所出発、湊川神社へ。

10時から湊川神社の武者行列。河内長野市長は楠公さん役で乗馬。私は後期高齢者、人力車で行列に参加する。

8時過ぎ、湊川着。10時より神事、終わり次第行列が出発。700年前の衣装に着替える、神社が時代考証を経て昭和初期に製作されたもの。ステテコ、肌襦袢から始まる。同じような衣装を今月初め、NHKへ大河ドラマをお願いするときに着けたが、やはり湊川で着替えると良く見えるし、神社の皆さんが着付けを手伝ってくれるのでかっこよく着ることができ、700年前にワープできた。

私は兵庫県会議員さんと同じ人力車へ乗る。車夫は大学時代人力車の車夫を4年間アルバイトでやっていた、細身の男性。2人乗った人力車を引くのは大変だろう。私たちの人力車は先頭から5台目。出発から1時間、最後尾が神社を出たと聞いた。えらい長い列らしい。

この人力車は1台140万円ほど、軽4輪車より高価、車夫の力でしか動かない。軽自動車を自分で運転する方がはるかに楽だ。

午後

兵庫県井戸知事が正成、東四條畷市長が正行、30Kg以上の衣装を着けて乗馬する。行政のトップ、経済界のトップ、野球選手、サッカー選手、人力車、30頭以上の馬、総勢3000人を超える人を動員する。5年に1度のイベントとは言え、費用、労力共に大変だ。

楠公さんのPRはまず湊川神社から。村も大河ドラマ採択をめざし、関係市町と共に頑張ろう。

5月27日（日）

今日から30日まで休暇を頂いて、嫁の姉さんの亭主、つまり兄貴の年忌と、嫁の親父の墓参に行く。嫁は足が少し不自由なので歩きが少し弱い。仕方がないので車で行くことにした。

村長の日記

嫁の兄の墓は神奈川県藤沢、嫁の親父の墓は千葉県柏市の近く。12時頃千早出発、初日は体力を考えて三日目インター近くの東急ハービスに泊る。長男が「近くに有名な鰻屋がある」予約してもらってまず晩飯、千早からほぼ4時間、夕方5時開店なので、5時15分過ぎ入店、満席。25～26人程度の店なのに、既に2組着席。私たちが入ってすぐにほぼ満席。1番高いうな重をリクエスト、3600円也。うな重が出てくるときには、ほぼ満席。うな重と肝吸いだけ、熱燗を頼んだが出てきたおつまみはピーナツ入りの柿の種小さな1袋、やがてうな重が来た。少し高いと思ったが現物を見て感心、うな重の上に鰻1匹、それも大きな奴。ご飯の間にウナギ半匹が入っている。関東流の蒸してから焼いた鰻、旨いので熱燗3本頂いた。さすがウナギ養殖の本場だけある。

東急ハービスのホテルは安いにもかかわらず広く、居心地のいいホテルだ。

5月28日（月）

10:00

ホテル出発、東名は意外と空いている。11時過ぎ、藤沢にある姉の家に着く。カーナビの便利な事は良くわかった。義兄の墓へ、義兄は無神論者で、墓は宗教は無し。周囲の墓は戒名が書いてあるか、南無阿弥陀仏、妙法蓮華協など書いてあるのに、ただ「空」と書いてあるだけ、しかも墓の敷地1杯に石が敷き詰めてある。周囲の墓を見ると石塔と境界の間に草が生えており、見苦しい。しかし義兄の墓は草1本も生えていない。土があれば草も生えるが、石の上には草が生えない。良い発見をした。何回もお参りし、メンテナンスが出来るのなら墓はどうでもいいのだが、メンテナンスが出来ないのであればメンテフリーの墓が合理的だと思った。

墓参後、明日の墓参に便利のように全国町村会館へ宿泊。

5月29日（火）

9:00

千葉県の松戸近くにある嫁の父の墓へ。

東京の高速は分岐が多く、アップダウンが多いのでカーナビの案内があってもなかなか走りづらい。しかもかなり皆さんがスピードを出すので、土地勘が無いと怖い。京葉道路を走って市川の先で一般道へ。新しい道路が出来ていたり、拡幅がされて走りよくなっている。絶え間ない工事が行われているようで、また次に来るときにはもっと走りやすくなっているようだ。父の墓は野辺石と石塔の間が草が生えてい

村長の日記

る。メンテフリーではなかった。草を取り除草剤を散布して帰る。

遅い昼食をイタリア料理店で取り帰る。

大阪までひと走りと思うが、後期高齢者。伊豆長岡温泉にある53年前新婚旅行時に泊った旅館へ。当時嫁の父にここへ泊れと言われた旅館。敷地14ヘクタール、岩崎小弥太氏の別荘だった。現在はプリンスホテルグループ。シティホテルと違い、まさに千早で泊っているようだ。

5月30日（水）

10:00

千早へ帰る。

伊豆縦貫道路から新東名高規格高速道路、110Km制限、半分以上片側3車線、走り易い。この前、僻地医療振興協会の理事長が奈良まで6時間と少しで来たとの話だったが、天候が良くノンストップで走れば可能だと思った。

途中のレストストップでは、地域の名物、新しいグルメ、土産。

これから道の駅をリニューアルするにはぜひ見る価値がある。